

尾張北支部

施設見学会

- 日 時：令和5年10月18日（水）
- 視察先：サーラeパワー東三河バイオマス発電所
（豊橋市新西浜町 2-10）
- 参加者：11名

尾張北支部（南村朋幸支部長）は、企業経営の向上を図るべく「施設見学会」を開催しました。

午後1時に見学先であるサーラeパワー東三河バイオマス発電所に到着し、統括管理部取締役部長中井茂博氏より発電所の概要についてスライドを活用した説明がありました。

同発電所はサーラeパワー（株）によって運営されサーラグループの一員です。サーラグループはエネルギー事業を中心に、生活基盤を支えるさまざまな事業を愛知県三河・静岡県遠州エリアを中心に全国各地で展開しています。

令和元年7月より木質バイオマス発電を本稼働し、東南アジアからの輸入PKS（パーム椰子殻）を主力燃料とし、奥三河や遠州地区から排出されるチップ化した未利用材等を混焼する際に出る熱を利用して発電しています。

バイオマス発電のメリットとして、天候に左右されない再生可能なエネルギーであること。また、排出されるCO₂の量は、植物は成長過程における光合成で大気中のCO₂を吸収するため、実質的にCO₂の総量はプラスマイナスゼロとなるため、温室効果ガスの抑制につながります。さらに、森林資源を活用することにより、森林保全・林業活性化につながります。

同発電所で発電した電力はFIT（固定価格買



サーラeパワー東三河バイオマス発電所にて記念撮影

取制度）を活用して20年間にわたり電力を販売していくとのことです。

発電能力は、22,100kW（一般家庭約4万世帯分）であり、ボイラーは「階段式水冷摺動ストーカボイラー」です。

見学では発電所内を案内していただき、要所所で担当者から詳細な説明を受け、バイオマス発電について、カーボンニュートラルについて、実際の現場を目の当たりにしてより深く習得することができ、大変有意義な施設見学会となりました。



発電所の外観（同社HP画像を引用）



発電所の概要について説明を受ける



発電所内の設備機器について説明を受ける



発電所内を見学